



議会だより

●平成二十六年第四回定例会

●もくじ

審議された議案と結果…………… P 2

一般質問要旨…………… P 5

決算特別委員会 要旨…………… P 11

(表紙写真 成人式)

第153号
平成27年2月

発行/喜茂別町議会
編集/議会広報編集委員会



大きな要素は、道外の一法人の滞納額が約3千2百万円程繰り越しているのが大きな要因とである。

日下委員

例えば今年度、不納欠損 2万0千7百円程度計上されている。

この3千2百万円が将来、不納欠損になる恐れがあるのか。また回収の見込みがあるのか。

小野税務室長

現在、町は参加差し押さえをしている。

したがって、この債権は塩漬け状態ということになる。

不納欠損は、一定の要件があるので、当面はこれにはあたらぬ状況が続くと思う。

日下委員

ある程度満足した金額を回収する見込みがあるのか。

小野税務室長

参加差し押さえという状況であり、お金にならないければ町の収入にならないので、今のこ

る見込みはない。

日下委員

生ゴミの処理の関係で、真狩村の施設が、十分に機能できなくなつたと報告を受けているが間違いないか。

藤井住民課長

指摘のとおり、真狩の施設が使用できなくなつて、生ゴミは民間業者に委託して処理している。

日下委員

平成 2年度予算時には、年間の通常の稼動を見積もつて負担金を計上したと思うが、間違いないか。

藤井住民課長

委員の指摘のとおりである。

日下委員

その後、平成 2年度途中で稼動してないにも関わらず、要は経費が確定して補正した記憶があるが、その件は把握しているか。

藤井住民課長

委員の指摘のとおり、真狩リサイクルセンターの堆肥化で検討した結果における補正をしている。

日下委員

その補正の中身は、どのような理由なのか、改めて説明してほしい。

藤井住民課長

真狩リサイクルセンターを、堆肥化施設にするということと、調査設計費を補正した。

日下委員

結果的に町にとって、利益のある補正だったと思うか。

藤井住民課長

当時の判断として、真狩村の処理施設が壊れたとき、4カ町村が真狩で施設を建てるなりして検討することの補正です。有効ではないかと考えた。

日下委員

最終的にはその結果として、真狩村の処理施設が稼動しなくて、俱知安町にお願いをして

今、生ゴミを搬入している状況になっている。

要は、そこをなくすにも片付けなければならぬ問題は、起債の関係であり、その償還について本町はどういう姿勢で臨んでいくのか。

菅原町長

当初、4カ町村で交わした協定書を尊重しなければならぬだろうと思つている。

ただ、廃止するということになれば、近々の情報であるが、起債は、繰上げ償還ということにはならない見解もいただいている。

最終的に建物等の財産は残るので、この議論はきちつとしていかなければならない。

真狩村からの都合でなつた話であり、真狩村としての責任はあるだろうと思つており、そういう気持ちで臨みたい。

日下委員

先の監査委員の指摘を受けて、理事者側でその指摘をどのように受け止めているのか。

内村副町長

予算の流用は、日ごろより、補正で対応するのが基本だろうと考えている。

流用は、監査委員の指摘のとおり、突発的な事故での取り扱いに限定し、できるだけ流用しないことが望ましいと考えている。

平成26年度においてもそういったことのないように予算の関係には都度その執行状況を確認した上で、補正の対応を行うように指導している。

日下委員

流用の判断は、最終的に誰がするのか確認したい。

内村副町長

金額によって、その範囲が決まっております。20万までは、総務課長の判断、それ以上は、私が決裁を行っている。

日下委員

特別職が判断しなければならぬ金額の 2万円が妥当かどうかはわからないが、やはり、議会にかける努力をすることは当然前だと思つて。

執行方針に基づいて予算編成されたものが、施策的に違つたような、その政策判断するようなものまでもが流用されていると監査委員が判断したからの指摘だと思つて。

内村副町長

監査委員の指摘は、委員の指摘の部分もあるところかと思つて、流用は、極力避けることが基本と考えているので、今後、極力補正での対応を行うように取り組んでまいりたい。

日下委員

これも監査審査意見で財政の健全に向けた効率的・効果的な財政運営が求められているが、理事者側が考える効率的・効果的財政運営とはどのように運営していくことが。

内村副町長

財政の健全化に向けては、さまざまな要素があつるかと思つて。国・道からの補助金の活用や起債についても過疎辺地といった効率の良い財源措置のあるものを充てている。



鈴川小学校学芸会

今、生ゴミを搬入している状況になっている。要は、そこをなくすにも片付けなければならぬ問題は、起債の関係であり、その償還について本町はどういう姿勢で臨んでいくのか。

内村副町長

広域行政の中での財政面は、本町が単独で取り組むことを比較した場合、広域的な中での取組は非常に重要なことであると思つて。

それが職員数の反映等に含める影響等を勘案すると、一定の事務事業に取り組むことは、財政の効率化に寄与している部分があるのではないかと判断している。

日下委員

個々を見ると、一見、効率的なように見えるが、事務組合とを統合した広域連合はもっと更に効率的な財政支出をする上では、有効かと思つてどう考えているのか。

菅原町長

町村合併を進めたが叶わない段階で広域化を考えていかなければならぬ、そのセンター的なものが広域連合という形になつた。

今の広域連合は、次へのステップが中々見えないという質問が会議の中で度々される。人口が減つていく中、単独町

村で効率的に賄えないというところで本町も今後、努力を重ねるが職員数を減らしていく場合には、広域連合としての需要は相当増えていき、多岐に渡る。

これを広域連合で対応するのが、今のところ重要ではないかと思っている。

広域連合や一部事務組合もあるが、今後、本町は、身近な町村と組んで事業を進める努力をしたいと思っており、その意味で、広域連合にもきつちりと言っていききたい。

日下委員

単独町村で努力しても、これ以上の効率化を目指す余地は、少ないと思う。

羊蹄山麓の町村では一部事務組合等で連携している。

やはり住民に身近な地域で、その財政の効率化を図るには、羊蹄山麓の枠組みが一番良いと思っている。

広域連合は、急になくせという議論には中々いかならないと思うので、羊蹄山麓地域での連携を進めるべき時期にきていると思う。

この地域でも首長経験が長い

菅原町長には主導的な立場で進めてほしいと思うがどのように考えているのか。

菅原町長

確かに、10年経験している中で羊蹄山ろく町村長会でも、責任ある立場にいる。

今後、さまざまな事業が出てきて、小さい町では受けられないことも考えられる。

町村を越えて、連携することが必須条件になってくる可能性もあるので、その準備をしている。

日下委員

決算説明資料で平成24年度と平成25年度の比較が示されているが悪化したように見受けられる。

その要因をどのように評価しているのか。

内村副町長

平成25年度の決算状況は、指摘どおり単年度収支の悪い状況や将来負担比率、経常収支比率についても前年度よりも上昇しているところが見られる。

ただ、その健全化の判断比率

等は問題のない状況であり、長期的な視点に立つと、それほど大きな財政悪化といった極端なものにはならないと想定している。

ただ、町の財源構成は、地方交付税の占める割合が大きく国の状況に左右される。

この自主財源が乏しい財政状況であり、その状況を注視していかなければならないが平成25年度の状況のみを捉えて、危機的な状況だとは判断していない。

ただ、財政調整基金を一定の額を積みあげたが、平成25年度、平成26年度と取り崩したので、極力、残せるよう進めていきたい。

来年、国勢調査があるが、地方交付税の単位としての人口は非常に大きな要素であるのでその取組も進めていきたい。

本年度は、自然災害が多い年にみまわれ、本町は幸いにも被害にはなりませんでしたが、異常気象による干ばつ等で農産物の生産減少で農家の方々としては厳しい一年になったのでは、ないでしょうか。

年末には、衆議院総選挙が行われ自民党がマスコミの予想どおり圧勝し、アベノミクス継続となりましたが国政の動向によつては、本町のような地方自治体にも財政面や政策にも影響がでてくると思います。

また、今年4月の議会議員選挙を控え、残された任期中は、町民の意思を町政に反映させるべく初心に帰って邁進していきたいと思えます。

広報編集副委員長 松橋 正樹



©Kimobetsu Town